

3 動物の分類

中1 中2 中3

イントロダクション

- ◆ **セキツイ動物** → 表で特徴をしっかり覚えよう。代表的な動物や間違えやすい動物にも注目しておこう！
- ◆ **無セキツイ動物** → 節足動物と軟体動物はおさえておこう。節足動物では、昆虫類と甲殻類が有名だよ。

セキツイ動物

セキツイ動物は、**背骨がある動物**のこと。呼吸のしかたや生活する場所、体温、子の生まれ方などの違いで**魚類**・**両生類**・**ハチュウ類**・**鳥類**・**ホニュウ類**の5種類に分類されているよ。

【セキツイ動物の特徴】

	魚類	両生類	ハチュウ類	鳥類	ホニュウ類
呼吸	えら	えら 肺皮ふ		肺	
体温	変温			恒温	
子の生まれ方	卵生				胎生
	殻なし/水中	殻なし/水中	殻あり/陸上	殻あり/陸上	子/陸上
からだの表面	うろこ	湿った皮ふ	かたいうろこ	羽毛	毛
例	イワシ タイ ウナギ	カエル サンショウウオ イモリ	ヘビ トカゲ ワニ ヤモリ ウミガメ	ハト ツバメ ダチョウ ペンギン	ヒト イルカ クジラ シャチ コウモリ カモノハシ ハリモグラ

【呼吸のしかた】

魚類はえら呼吸。両生類はカエルが有名だけど、幼生のときはえら呼吸、成体では肺と皮ふで呼吸をするよ。ハチュウ類、鳥類、ホニュウ類は肺呼吸だ。

【体温】

魚類、両生類、ハチュウ類は、環境の温度変化とともに体温も変化するんだ。このような動物を**変温動物**というよ。

それに対して、鳥類とホニュウ類は環境の温度が変化しても体温がほとんど変化しない。このような動物を**恒温動物**と呼んでいるんだ。

【子の生まれ方】

卵を産み、卵から子がかえるような生まれ方を**卵生**、親の体内である程度育ってから生まれる生まれ方を**胎生**というんだ。



両生類かハチュウ類かで迷いやすいのが、イモリとヤモリ。イモリは「井守」と書くから井戸を守るので両生類、ヤモリは「家守」と書くから家を守るのでハチュウ類と覚えておこう。

両生類は、カエル、サンショウウオ、イモリの3つを覚えておこう。

ウミガメは泳いでいるけれど、両生類ではなくハチュウ類だよ。

ダチョウやペンギンは空を飛ぶことはできないけれど、鳥類に分類されるんだ。

クジラやイルカ、シャチ、コウモリはホニュウ類だよ。魚類や鳥類と間違えないようにしておこう。

少しくわしく

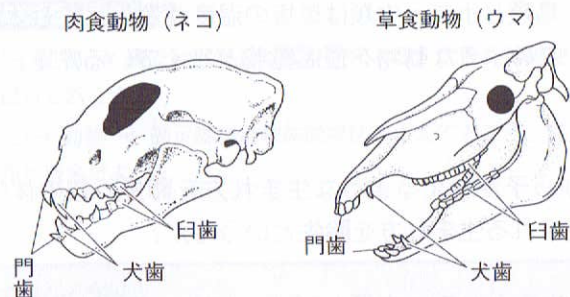


ホニュウ類なのに卵を産む

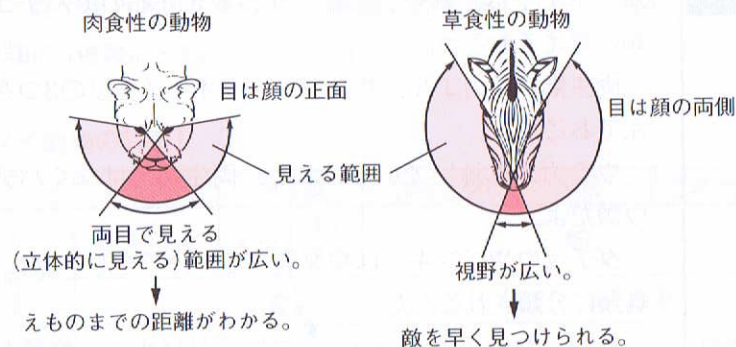
ホニュウ類の中でもカモノハシとハリモグラは卵生だ。卵を産み、卵からかえった子を乳で育てているんだ。

草食動物と肉食動物

● 歯のつくり



● 目のつき方



肉食動物は、おもに動物を食べる動物で、**草食動物**は、おもに植物を食べる動物だね。どちらも生活に適したからだのつくりになっているんだ。

肉食動物から見ていこう。肉食動物はえものを捕らえるために適した歯のつくりと目のつき方になっているんだ。歯は、えものをしとめるための**犬歯**と肉を切りさく**臼歯**が発達していて、目が前向きについていることで、両目で見える範囲(立体的に見える範囲)が広くなり、えものとの距離をつかみやすくなっているんだよ。

それに対して草食動物は、草をかみ切るための**門歯**と草をすりつぶす**臼歯**が発達しているんだ。また、目が横向きについていることで、見える範囲(視野)が広くなり、肉食動物などをはじめとした外敵による危険から身を守りやすくなるんだ。

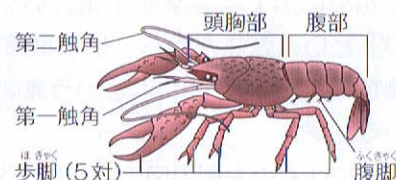
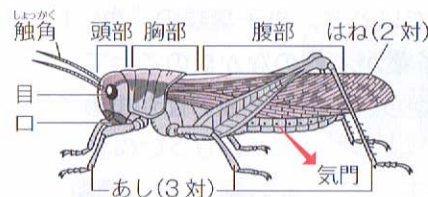
無セキツイ動物

セキツイ動物に対して、背骨がない動物を**無セキツイ動物**というよ。無セキツイ動物は、さまざまなグループに分類されるんだけど、**節足動物**と**軟体動物**が有名だよ。

バッタやエビのように**節のある足**をもつなかまを**節足動物**というんだ。からだを覆っている殻を**外骨格**というよ。この外骨格と筋肉を使って動いているんだ。節足動物はさらに細かく分類されていて、**昆虫類**や**甲殻類**、クモ類、ムカデ類、ヤスデ類などがあるんだ。

タコやイカ、貝類などのやわらかいからだをもつなかまを**軟体動物**というんだ。内臓はやわらかい**外とう膜**で覆われている。

● 節足動物



● 軟体動物

